しろちどり

第 99 号

2019 年 4 月
日本野鳥の会三重 http://miebird.org/

オオジュリンの渡り――標識調査から分かること――

津市　平井 正志

はじめに

オオジュリンは北半球に広く分布するが、日本で越冬するものは北海道、東北北部、ロシア極東部で繁殖し、冬は本州以南で越冬する。三重でも河口や河川中流の河川敷の葦原で冬には普通に見られる。

オオジュリンは標識調査では捕獲され、足環を着けて放鳥されることが多い鳥である。放鳥された鳥が別の場所で捕獲されると、「回収」として山階鳥類研究所へ報告され、元の放鳥場所、日時などが明らかになる。

三重県での回収例と渡りルート

著者は 1996 年から 2007 年に津市安濃川中流、および亀山市鈴鹿川中流で、オオジュリンを捕獲、放鳥した。そのうちの回収例は 14 例あった(表 1)。

鳥類アトラス（山階鳥類研究所）※1 によると東北地方の太平洋側の宮城と日本海側の新潟との間の回収例はほとんどなく、この間に鳥の往来はないと考えられる。つまり、オオジュリンが個体ごと（おそらく繁殖地ごと）に東北地方では太平洋側かあるいは日本海側のどちらか一方を渡るように固定されているのであろう。それぞれ日本海ルート、太平洋ルートを名付ける（図 1)。もし、個体ごとにルートが固定されておらず、毎年どちらかのルートを任意に選んで渡るとすると、新潟で放鳥されたものが宮城や仏沼でも回収され、宮城で放鳥されたものが新潟でもっと多く回収されてもよいが、標識調査でのデータはそうなっていない。これを前提として話を進める。（図 1）

さて、鳥類アトラス※1 によると宮城県で放鳥されたオオジュリンのほとんどは太平洋側で回収される。しかし、新潟県で放鳥された鳥は太平洋側関東以西でも日本海側でも再捕獲されていて、新潟まで達したオオジュリンは双方へ分散するようである（図 1)。

著者が関与した 14 の回収例を考えると、結局新潟で放鳥されたか回収された 3 例 (表 1 No.4 ～ 6) は新潟まで日本海ルートを渡っていて、新潟以西で太平洋側の三重まで達している。また、青森仏沼と宮城の 3 例 (表 1 No.1 ～ 3) は太平洋ルートを渡っているのであろう。しかし、茨城以西、愛知までで放鳥あるいは回収された 6 例 (表 1 No.7 ～ 12) はどちらのルートを渡って来たのか判断できない。同じく北海道で標識された 1 例 (表 1 No.13) もルートを特定できない。

目次

オオジュリンの渡り
――標識調査から分かること――　---------- 2
表紙の言葉---------- 2
珍しい猛禽 (ツンドラハヤブサ ?) の観察記-------- 4
とうとう津市民に親しまれた経ヶ峰
にまで風力発電計画が---------- 6
メガソーラー事業問題について ---------- 7
事務局だより ---------- 9
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
―連載第 15 回　ハマシギとサルハマシギ―　--10
野鳥記録 ---------- 14
立山アルペンルート宿泊探鳥会のご案内---------16
探鳥会報告（2018 年 11 月～ 2019 年 2 月）-----16
編集後記----------20

表紙の言葉

松阪市　小野 新子

ヒヨドリと藪ツバキ

住宅地から低山まで我が物顔で飛び回っているヒヨドリ、我が家の庭にも番で住み着いている。

初夏には壊れたラジオのように、ジージーと鳴き続ける幼鳥にかいがいしく餌を運び、また盛夏には大きなクマゼミを時間をかけて丸呑みにし、そのくせ冬の金柑は、振り回して小さくちぎって食べている。藪ツバキの花が咲くと、ボサボサ頭のちょい悪おやじが、黄粉でも付けているようで愛嬌があって憎めない。しかし大切にしているコブシのつぼみが膨らみ始めると、そうは言っていられない。彼らはつぼみを食いさがし、コブシの花を無残な姿にしてしまうからだ・・・

まもなくヒヨドリと私の攻防戦が始まる。

日本列島の横断

新潟で放鳥されたオオジュリンのかなりな個体が太平洋側で再捕獲されることは興味深い。オオジュリンのように低地の葦原でしか見ることの出来ない鳥がどうやって日本列島を横断するのか。特に足環番号 02P-26512(表 1 No.4) の個体は新潟で秋に捕獲され、その冬のうちに三重まで達している。新潟から関東へ抜ける最短は上越新幹線沿いのルートであり、谷川岳付近の清水峠 (1440m) を越えなければならない。あのオオジュリンが飛び越えるのであろうか。むろん糸魚川まで達すれば大糸線沿いの低地を抜けられるが、それでも 1000m の塩尻峠か 1200m の鳥居峠がある。むろん、それ以外の福井以西から太平洋側へ渡るルートも考えられよう。いったいどこをどうやって太平洋側へ抜けるのであろうか。おそらく、雪の少ない太平洋岸で越冬することにメリットがあったため、このような渡りが発達したのではなかろうか。

朝鮮半島ルートの可能性

福岡県での放鳥の 1 例 (表 1 No.14) は興味深い。鳥類アトラス[※1] によるとオオジュリンの朝鮮半島経由の渡りも記録されている。今回の 1 例は越冬期をまたいての記録である。太平洋ルート、日本海ルートあるいは朝鮮半島経由のルートの 3 通りの可能性が考えられる。今後の課題であろう。

繁殖地

オオジュリンの繁殖地である北海道放鳥の回収は 1 例 (表 1 No.13) しかなく、それも道南、函館近郊の七飯町で秋の渡り期に放鳥されたものが、三重で越冬している。三重で越冬するオオジュリンが北海道のどこで繁殖するのかはもっと回収例が増えれば分かるであろう。

図 1：オオジュリン渡りのルート

まとめ

以上三重で越冬するオオジュリンは太平洋岸のルート、日本海側のルートの 2 つのルートがありそうである。また、朝鮮半島経由もあるかもしれない。今後の研究に期待したい。

オオジュリンの回収については新規放鳥あるいは再捕獲放鳥してくれたバンダー諸氏、および山階鳥類研究所保全研究室の皆さんの協力を得た。ここに謝意を表す。今回のデータは「鳥類標識調査データ管理利用規程」に基づいて利用を許可されたものである。また、鳥類標識調査は環境省による事業である。

※ 1　鳥類アトラス（冊子体）は、環境省のホームページ で閲覧ができる。
http://www.biodic.go.jp/banding/atlas.html

表 1　オオジュリンの回収例

No.	足環番号		放鳥場所		日付	再捕獲場所		日付	備考	渡りルート
1	02H	87611	青森	仏沼	1995/10/21	三重	安濃川	1996/ 1/28	同一越冬期	太平洋ルート
2	02R	46844	三重	安濃川	2004/ 1/25	宮城	田尻	2005/10/27		太平洋ルート
3	02Y	85078	宮城	東松島	2006/10/28	三重	安濃川	2007/ 1/28	同一越冬期	太平洋ルート
4	02P	26512	新潟	福島潟	2000/10/31	三重	安濃川	2001/ 3/24	同一越冬期	日本海ルート
5	02S	43597	新潟	福島潟	2001/10/25	三重	安濃川	2004/ 2/ 8		日本海ルート
6	02R	46743	三重	鈴鹿川	2003/11/23	新潟	水原	2004/10/16		日本海ルート
7	02F	81760	茨城	高浜	1994/11/27	三重	安濃川	1996/ 1/28		
8	02K	40370	茨城	水海道	1997/10/26	三重	鈴鹿川	1998/11/22		
9	02L	40862	静岡	沼津	1997/11/ 1	三重	安濃川	2001/ 3/24		
10	02M	58750	静岡	沼津	1998/10/27	三重	安濃川	1999/ 1/ 2	同一越冬期	
11	02T	76057	静岡	沼津	2002/11/ 3	三重	安濃川	2004/ 1/ 2		
12	02U	89510	三重	安濃川	2007/ 1/28	愛知	碧南	2007/11/17		
13	02M	78113	北海道	七飯	1998/10/20	三重	安濃川	1999/ 1/ 3	同一越冬期	
14	02R	46810	三重	鈴鹿川	2003/12/22	福岡	今津	2004/11/10		朝鮮半島経由ルート？

珍しい猛禽 (ツンドラハヤブサ ?) の観察記

桑名市　山神 勝治

昨年 12 月にツンドラハヤブサと思われる珍しいハヤブサを見ることが出来たのでその顛末をまとめてみました。

ツンドラハヤブサ ?

昨年の 12 月 7 日、カモやカモメを探そうと海岸に向かって田んぼ道を車で走っていると、トビが何やら猛禽を追いかけて飛ぶ姿が目に入りました。慌てて車を道路脇に止めてその様子を車中から見ていました。猛禽は、チョウゲンボウだろうと勝手に決めつけてしばらく見ていると、何故か突然トビは追いかけるのを止め何処かへ飛んで行きました。トビの攻撃を交わしたその猛禽は、少し先の田んぼに降りました。

この猛禽を写真に撮ろうと、慌ててこの猛禽が降りた田んぼに行ってみると、それはチョウゲンボウではなくハヤブサの幼鳥だとわかりました。しかし、よく見るハヤブサの幼鳥とは何処か違って見えました。

胸から腹部は、淡クリーム色で（ワイン色の部分は、狩りの時の返り血か ?）褐色の太い縦斑があります。アイリングと嘴が青灰色していてハヤブサの幼鳥に似ていますが、背中の羽縁は、バフ色をしています。そして一番の相違点は、眉斑が長く後頭部でタスキの様につながっていることです。

早速家に帰ってから画像を拡大して手持ちの図鑑で調べてみました。亜種ハヤブサには、7 種類が記録されているようですが、このハヤブサにピッタリ当てはまるのは見当たりませんでした。それでもその中で細長い眉斑が後頭部で左右がつながっているウスハヤブサが近いのではないかと考えました。しかしウスハヤブサは、体下面が淡く縦斑が細いようで、このハヤブサと合致しないように感じました。

そこでワシタカに詳しい『ワシタカ・ハヤブサ識別図鑑』の著者である真木広造氏に見てもらいました。
その結果、

①眉斑が不明瞭である。

②下面の縦斑が太すぎる。

このことからウスハヤブサではなくツンドラハヤブサに一番近いとの事でした。

思いもかけない名前にびっくりしました。手持ちの図鑑には、ツンドラハヤブサという名前の記載はありましたが、写真等の詳細な解説は掲載されていません。ネットで調べてみると鹿児島の方で成鳥が記録されていましたが幼鳥は未記録のようです。

今回はからずもツンドラハヤブサという珍しい猛禽を見ることが出来ました。他にも年明け早々に団地裏の里山でクマタカを、そして自宅近くの員弁川の河原でチョウセンオオタカを見る事が出来ました。田んぼや河原・里山等の身近なところでもこのような珍しい鳥に出会うことが出来、探鳥の楽しさを感じています。

亜種チョウセンオオタカ

発見されたハヤブサ幼鳥について

四日市市　三曽田 明

山神氏の観察力にはいつも敬服させられるが、今回は、『日本鳥類目録 改訂第 7 版』(日本鳥学会) にも記載がない種 (亜種) であるので、山神氏の写真を元に私なりにいくつかの文献をあたり、ハヤブサの亜種について検討してみた。

本個体は猛禽類の特徴を持ち、頬には黒っぽく太い髭模様 (夏鳥のチゴハヤブサに対しても十分に太い) があるので、種はハヤブサ (*Falco peregrinus*) と言える。また、胸から腹の細かい縦斑、蝋膜（ろうまく）は成鳥のような黄色ではないので、幼鳥と判断できる。ところが、後頭部へと続く明瞭な眉斑があり、普段見かけるハヤブサとの違和感がある。

IOC(国際鳥学会) によるとハヤブサの亜種は 16 亜種で表 1 のように分布している。このうち、地理的に見て、冬季に三重に来る可能性があるものは、表で○または△印をつけた 5 亜種。この 5 亜種の幼鳥の特徴を各種文献を参考に列挙して、写真の鳥と比較したものが表 2。

表 2 の結果を総合的に見ると、確かに亜種ツンドラハヤブサが一番近いという結果になる。

ただ、唯一手元にある資料でツンドラハヤブサの幼鳥として明確に描かれた、The Sibley Guide to Birds のものとは「額から頭頂にかけて淡バフ色」という点が異なる (Sibley 2014)。ツンドラハヤブサは成鳥でも額が白い。幼鳥ではさらにその部分が頭頂にまで達するようである。また、後頭部に至

表 1　ハヤブサの亜種とその分布

学名 ※ 1	亜種和名	分布	鳥類目録に記載あり	冬に三重に来る可能性
F. p. tundrius	ツンドラハヤブサ	アラスカ～グリーンランド		△※ 2
F. p. pealei	オオハヤブサ	アリューシャン～アラスカ、カナダの西南部	○	△
F. p. anatum	アメリカハヤブサ	北アメリカ（ツンドラの南）～メキシコ北部	○	△
F. p. calidus	ウスハヤブサ	ラップランド～シベリア北西部	○	△
F. p. japonensis	ハヤブサ	シベリア北東部～日本	○	○
F. p. furuitii	シマハヤブサ	小笠原諸島 (日本)	○	× ※ 3
F. p. cassini		南アメリカの西部（コロンビア～ティエラデルフエゴ）、フォークランド島		×
F. p. peregrinus		ユーラシア北部（ツンドラの南部）		×
F. p. brookei		地中海地方～コーカサス、イラン北部		×
F. p. peregrinator		パキスタン、インド、スリランカ～中国の東部		×
F. p. madens		カーボベルデ島 (大西洋、北アフリカの西沖合い)		×
F. p. minor		モロッコ、モーリタニア、アフリカ、サハラ以南		×
F. p. radama		マダガスカルとコモロ島		×
F. p. ernesti		フィリピン、インドネシア、ニューギニア、ビスマルクアーチ		×
F. p. macropus		オーストラリア		×
F. p. nesiotes		ソロモン諸島、バヌアツ、ニューカレドニア、フィジー		×

※この表の分類は、IOC World Bird List (9.1)　による。これは、https://www.hbw.com/species/peregrine-falcon-falco-peregrinus および Illustrated Checklist of the Birds of the World (Lynx Edicions Publications) によると、さらに 3 亜種が記載されており、これは英語版のウィキペディア　https://en.wikipedia.org/wiki/Peregrine_falcon　の記載と一致しているが、いずれも日本へ飛来する可能性はない。

※ 1. 学名の *Falco peregrinus* は *F.p* と略する

※ 2.「1993/12/18 に和歌山市でビルに衝突した個体が、足環から 1991/10/14 にアメリカ合衆国のテキサス州で当年生まれの渡りの途中の個体を捕獲、標識放鳥したものであった。」図鑑 日本のワシタカ類 (文一総合出版) より引用

※ 2. 1937 年以降の記録なし

表 2　ハヤブサ幼鳥の特徴

亜種和名	幼鳥の特徴	写真の鳥が該当するか
ハヤブサ	上面は黒褐色から暗褐色で、淡いさび色から灰色の羽縁	△
	下面は淡バフ色で、太くはないが黒褐色の縦斑が密にある	△
ツンドラハヤブサ	頬のひげ状パッチは細く、頬の淡バフ色部が広い	△
	バフ色またはさび色の幅広い羽縁	△
	額から頭頂にかけて淡バフ色	△
	淡バフ色の眉斑がある	○
	尾は暗い褐色で、両弁にバフ色の横斑が 10 対以上ある	-
	脛毛を含め、下面に黒褐色の細い縦斑が並ぶ	○
	下尾筒に太めの黒褐色の横斑	-
オオハヤブサ	喉と頬に一面の暗褐色斑	×
	淡色羽縁が目立たない	×
	下面の暗褐色縦斑がより暗く、著しく太い (縦斑の太さには変異あり)	×
	下尾筒の暗褐色横斑著しく幅が広く、先端寄りのものは三角形	-
アメリカハヤブサ	幼鳥の上面は暗褐色で、さび色の細い羽縁	△
	頬のひげ状パッチは太い	△
	下面に太い縦斑 (オオハヤブサより細い)	△
	下尾筒にオオハヤブサのより細いブーメラン型の横斑	-
ウスハヤブサ	上面が他の亜種よりも淡い褐色	×
	明瞭なバフ色羽縁がある	×
	下面が白っぽく、細い縦斑	×
	頬のひげ状パッチは細い	×
	額から頭頂部にかけて淡バフ色	×
	白っぽい顕著な眉斑がある	○

○：該当する　△：やや該当する／該当しないとは言い切れない　×：該当しない　--：不明

る明瞭な眉斑に限っては、ワシタカ・ハヤブサ識別図鑑の「亜種ハヤブサ幼鳥 (山形県飛鳥、6 月)」の写真にも見られるように、国内のハヤブサでも見られるようである。

総合的に検討した結果、「ハヤブサの亜種の中では、亜種ツンドラハヤブサ (F. p. tundrius) に一番近いが、亜種ツンドラハヤブサと同定できるまでには至らない」というのが現段階の私の結論。

「…と思われる」、「…が疑われる」といった観察記録であっても、貴重な記録として後世に残す必要があると思う。それは、そういった記録の積み重ねが「日本の鳥類」を分類するための基礎となっていると思うから。その意味でこの文章を書いた。

[参考文献]

日本鳥学会 2012.　日本鳥類目録改定第 7 版 .　日本鳥学会 , 三田 .

森岡照明・叶内拓哉・川田隆 1998.　図鑑 日本のワシタカ類 .　文一総合出版 ,　東京 .

真木広造 2014 .　ワシタカ・ハヤブサ識別図鑑 .　平凡社 ,　東京 .

David Allen Sibley.2014. The Sibley Guide to Birds, 2d Edition.　Alfred A. Knopf Inc, New York

"IOC World list (9.1)", < http://dx.doi.org/10.14344/IOC.ML.9.1 >　(参照 2019/2/1)

"Peregrine Falcon", < https://www.hbw.com/species/peregrine-falcon-falco-peregrinus >　(参照 2019/2/1)

とうとう津市民に親しまれた経ヶ峰にまで風力発電計画が

津市　平井 正志

風力発電計画

津市と経ヶ峰とそれに続く伊賀市にまたがる山域に風力発電計画が持ち上がっている。

東京の「株式会社グリーンパワーインベトメント」なる会社が「平木阿波ウィンドファーム」および「ウィンドファーム津芸濃」の互いに隣接する 2 つの計画を作り、現在アセスメントの方法書が縦覧されている。

計画ではこの山域に 3000kw の風車（全高 145m）が合計 24 本立つ。経ヶ峰の山頂は避けているものの、隣接するいくつかのピークは計画域にあり、風車が建設されるらしい。風車は津市安濃町からも、津市街地からも見えるようになる。

クマタカ

この山域にはクマタカが棲息することが知られている。クマタカへの影響は 1）直接風車に衝突する、2）風車を避けて飛ばなければならないため繁殖効率が落ちる、あるいは 3）風車をきらって繁殖地そのものを放棄するなどの可能性が考えられる。しかし風車への衝突についてもモデルはあるが、その衝突モデルを野外で実証した例はない。その他の影響については解析方法すら公表されていない。

津市から望む経ヶ峰

地元の反対意見が百出した説明会

方法書に関する説明会が伊賀市、津市で行われた。そのうち安濃町中公民館で 2 月 8 日行われた説明会では地元の人達の経ヶ峰に対する思いが次々に述べられ、意見は皆反対であった。改めて経ヶ峰がいかに地元に親しまれた山であるかが明らかになった。また、計画が津市民に周知されておらず、津市街地でも説明会を開き、かつ方法書縦覧期間を延長するよう要望があった。会社側は責任ある立場の社員が出席していない模様で、すべて「検討する」との返答に終始した。

当会は風車の建設に反対し、方法書に対する意見を提出した。

なお、地元津市では当会会員武田氏を呼んで学習会を開催し、建設反対の署名運動を始める予定である。

メガソーラー事業問題について

（2019 年 1 月 15 日環境省及び経済産業省を訪問して）

四日市市　西垣 博充

はじめに

2018 年 10 月 8 日（茅野市民館）にて開催された全国 メガソーラー問題シンポジウムに、「足見川メガソーラー計画から里山を守る会」のメンバーとして参加しました。その時の全国各地からのメガソーラーによる環境破壊や工事による大災害を誘発しかねない事例が多く存在していること、また強行に工事を開始して、地域住民とのトラブルも後を絶たないことを知りました。

そして 2019 年 1 月 14 日、東京都内に於いて、「全国メガソーラー中央集会」が開催されました。その翌日（15 日）、中央集会にて採択した「要請書」を、環境省及び経済産業省を訪問して提出いたしました。ここからは、「要請書」の要点を列挙して、当局の見解及び四日市足見川メガソーラー計画の現状を述べていきます。

全国メガソーラー問題中央集会

太陽光発電施設を環境影響評価の対象とする事に関する要請書（環境省に提出）

1. 太陽光発電施設を環境影響評価の対象とする際の規模要件について

現在、太陽光発電施設を条例で環境アセスの対象としている県は、長野県・山形県・大分県の 3 県である。また、開発面積の一種として太陽光発電施設もアセスの対象となり得る都道府県が 29 府県あり、三重県も条例で対象としている。さらにいくつかの県が検討を開始している。

それに対し環境省が検討を始めている「太陽光発電施設等に係る環境影響評価の基本的考え方に関する検討委員会」で示されている規模要件は、第一種事業 100ha である。

規模要件が 100ha では、ほとんどの計画がアセスの対象から外れてしまう。環境破壊型太陽光発電の問題を解決できないでいる。

たとえ事業規模が小さくても関係自治体の首長もしくは議会からの要望がある計画に対し、すべて環境評価の対象とすべきである。

2. 環境影響評価の手法について

日本の環境影響評価の手続きでは ,「評価」は事業者自らが行う事業者アセスで、「評価」に対して住民や行政側が意見を述べられない仕組みとなっているが、これは制度的な欠陥である。よって、準備書の段階で提出された意見を踏まえ事業者以外の第三者的機関が評価を行うように改正する。また、米国のように影響評価によっては、ゼロ・オプション（事業中止）まで踏み込むことを期待する。

一方、四日市足見川メガソーラー事業計画については、平成 28 年度の夏より三重県環境影響評価条例により、業者がアセスの手続きを進め平成 30 年 8 月評価書の提出を終えている。この間、平成 30 年 1 月に知事意見として、事業規模 95ha の内、60% にあたる東エリアは残すべきであるという回答を得ている。しかしながら、事業者の評価書には何ら反映されていない。また、地域住民への説明会が開催されはしたが、住民が納得しているとは到底思えない。ただ単に自治会側と協定を結んだという関係性のみでは、自治会が勝手にしてしまうこともあるため、コミュニケーションがあるとみるのは無理がある。

3. 事後調査の実施及び報告書の作成について

事業開始後に行う「事後調査の実施」及び「報告書の作成」の手続きにおいては、太陽光発電パネルの廃棄について調査と報告を行うよう義務付けることを求める。また、事業終了後には計画地から太陽光発電パネルが完全に撤去されることと、適正に廃棄されることを担保する仕組みが必要である。

さらなる FIT 法改正を求める要請書（経済産業省に提出）

FIT 法（固定価格買取制度）によって全国各地でメガソーラー（1MW 以上の出力をもつ太陽光発電施設）の建設ラッシュが始まった。

FIT 法が導入された当初は、再生エネルギーの普及により脱原発社会の実現が可能になると期待が高まったが、現状では、原発はどんどん再稼働されるし、メガソーラーの無節操な開発が景観を乱すだけでなく、今までにない大規模な土地造成・森林伐採による環境悪化、水源への影響、災害誘発など、さまざまな問題が浮き彫りになり、危機感を持った人々が全国各地で反対の声をあげる住民運動を展開している。

また、資源エネルギー庁のホームページにおいて、平成 28 年 10 月より運用している「不適切案件に関する情報提供フォーム」へは、2018 年 8 月末までに延べ 223 件の通報が寄せられています。このうち自治体からは 24 件の通報があり、その大半は法令違反、条例違反及び地元との調整に関するものです。

地域との共生について

2017 年 4 月 1 日施行の改正 FIT 法において、認定時に土地利用や安全性に関する他法令（条例を含む）の遵守を求めること。以上のことが盛り込まれたが、地域との共生を考えた場合、これではまだ十分な改正とは言えない状態である。条例を含む関係法令に違反した悪質な事業を無くし、地域との共生を図るために、以下のように法改正を求める。

① 認定について

関係する地方公共団体の条例を含む関係法令を遵守し、同意を得ることとする。

② 未稼働案件について

関係する地方公共団体の首長または議会から条例を含む関係法令に違反しているとする申請があった場合には認定取消しとする。

③ 稼働中の案件について

関係する地方公共団体の条例を含む関係法令に違反した場合には認定取消しとする。

（経産省側のコメント）

自然再生可能エネルギーは、長期安定的な主力電源として考えており、FIT 法の導入は認定により買取義務と買取価格が発生するものであるが、認定取得で終わりではなく稼働中であっても事業終了まで遵守しなければならない。よって、条例を含む関係法令に違反すれば、改善命令を出し、勧告に応じなければ、聴聞・認定取消しとなる。

急斜面に設置され崩れたソーラーパネル

国民負担の抑制について

2018 年の賦課金（国民負担）の総額は、2.4 兆円で、電気料金に占める賦課金の割合は、産業用･業務用で 16%､家庭用で 11% に増大している。事業用太陽光発電施設の費用は認定時に比べ、運転開始の時期が遅れるほどコストが低減している。よって、買取価格の決定は認定時ではなく運転開始時とすべきである。また、過去に認定を受けたまま稼働していない未稼働案件についても運転開始時の買取価格に変更するよう法改正をもとめる。

（経産省側のコメント）

太陽光発電事業は、主力電源として長期安定的に考えており、先に認定を取得してファイナンス（金融）を付けることをしないと事業成立が難しい。しかしながら、認定買取価格の高い 2012 年（40 円）、2013 年（36 円）、2014 年（32 円）の 3 年間に認定を取得し、未だ稼働していない未稼働案件は合計で 23,515 万 KW あり、今後この案件が稼働すれば国民負担が更に増大することになる。

最後に思うことは、FIT 法成立後、2012 年から 2014 年にかけて太陽光発電施設バブルが発生したのも、地球温暖化防止のため自然再生可能エネルギーの普及という目的があったにせよ、事業用の土地に経産省による認定買取価格（諸外国に比べ非常に高い）をセットにしたことが、玉石混交の参入業者を許して利益を優先し、森林伐採・里山破壊・景観破壊・地域住民との衝突をもたらしました。余りにも賦課金による国民負担を前提にした事業者側に有利な事業となっているのではないでしょうか。

事務局だより

活動の記録（2018 年 12 月～ 2019 年 2 月まで）

2018 年

12/15　ミヤコドリ一斉調査

12/18　三重県環境影響評価条例に基づく意見聴取会で代表が意見陳述
（松阪飯南ウィンドファーム発電所建設計画）

2019 年

1/ 7　松阪市立松ヶ崎小学校　野鳥観察会のため下見

1/12　会報「しろちどり第 98 号」発行・発送作業

1/13　ガンカモ類調査

1/19　松阪市立松ヶ崎小学校　野鳥観察会実施　（松阪地区有志）

1/23　志摩市上下水道部（浄化水場）へ探鳥会の許可申請

1/26　ミヤコドリ一斉調査

2/ 6・2/ 8　（仮称）平木阿波ウィンドファーム・（仮称）ウィンドファーム津芸濃事業
環境影響評価方法書　住民説明会に参加

2/4　中日新聞の取材（木曽岬干拓地のチュウヒ・足見川メガソーラー）

2/ 8　平成 30 年度紀伊長島鳥獣保護区カワウ保護管理対策連絡協議会に出席（代表）

2/ 9　第 3 回理事会

2/22　（仮称）平木阿波ウィンドファーム環境影響評価方法書について意見書提出

2/25　ミヤコドリ一斉調査

第 3 回理事会報告

2019 年 2 月 9 日（日）　津市安濃町中公民館　出席：8 名

下記の議題について協議・報告しました。

【協議事項】

●宿泊探鳥会について補助金の有無など
立山案に決定。

●足見川メガソーラー問題　今後の方針について

●（仮称）平木阿波ウィンドファーム事業・
（仮称）ウィンドファーム津芸濃事業　説明会の報告／意見書（案）
両計画ともクマタカの繁殖地であり、計画に反対する。

●ガンカモ調査　今後の調査について
来年度は県の委託になる見込み。調査地分担を再検討する（代表）。

●繁殖調査　未調査ルートについて話し合った。

●総会　来年度の計画・体制など

●しろちどり 100 号　記念号としての企画

【報告事項】

●紀伊長島カワウ問題

アオゲラ

シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
―連載第 15 回　ハマシギとサルハマシギ―

津市　今井 光昌

ハマシギは旅鳥または冬鳥として数多く日本に渡来します。シギ・チドリ類の中では最も多く見られる種の一つで、三重県でも冬季の浜辺や干潟で数百から時には千を超える群れが見られます。

日本に渡来する種はアラスカ北部で繁殖したものが大部分ですが、複数の亜種が渡来していることが知られています。ハマシギと名の付くものにヒメハマシギとサルハマシギがいます。ヒメハマシギは国内で稀に観察されていますが、三重県への渡来はありません。サルハマシギは春秋に単独か数羽で渡来しますが、大きな群れでの渡来や越冬記録はありません。2007 年 5 月 8 日に雲出川河口周辺に 4 羽と 8 羽の小群が現れました。12 羽ものサルハマシギが渡来したのはこの時だけです。

ハマシギとサルハマシギは、嘴が長くて下方に湾曲しているなど、似ているとよく言われますが、似ているのは上面が灰褐色で下面が白くなる冬羽だけで、夏羽や幼鳥では羽模様の違いが明瞭です。嘴の長さはハマシギの方が短いとする図鑑もありますが、嘴の長さがサルハマシギと同程度のハマシギもいます。両種を嘴から識別するときは長さよりも形状の違いが有効です。サルハマシギの嘴はハマシギに比べると緩やかに下方に湾曲し、先端部分がより細いです（図 1-2）。足はサルハマシギの方が長く、年齢に関係なくハマシギの腰の中央部は黒褐色でサルハマシギは腰から上尾筒が白いです。

成鳥夏羽

図 1　ハマシギ　成鳥夏羽　2015.05.02

図 2　サルハマシギ　成鳥夏羽　2015.05.18

ハマシギ成鳥夏羽は腹部に大きな黒斑が出るので他種との識別が容易です (図 1)。光線の具合で上面の羽色がミユビシギに似て見える時もありますが、嘴の長さ、腹部の黒斑の有無、など識別点は多いです。サルハマシギ成鳥夏羽は頭部から胸・腹にかけて赤褐色です（図 2）。夏羽に限っては下面の羽模様だけでも両種を識別できます。

図 3　ハマシギ　成鳥夏羽　2014.04.26

図 4　サルハマシギ　成鳥夏羽　2007.05.08

図５　ハマシギ　成鳥夏羽　2012.05.12

図５は約500羽の群れの中にいた１羽です。背・肩羽の黄色味が強く、軸斑の模様も普通の夏羽個体とは違います。ハマシギで日本に渡ってくる亜種は主に亜種ハマシギ（*Calidris alpina sakhalina*）とされていますが、その他にもいくつかの亜種が少数渡来していると言われています。その内のどれかひとつの亜種ではないかと考えますが、裏付けはありません。渡来数の多いハマシギは羽模様だけでなく、嘴も長いものから短いものまで様々な個体がいます。

図６　ハマシギ　成鳥夏羽　2009.05.16

ハマシギの夏羽換羽は雨覆・三列風切は基本的に換羽しないので、擦れた冬羽が多く残ります。雨覆の擦れが特に激しい図６の個体は第１回夏羽を疑いますが、Chandler の図鑑に雨覆が激しく擦れた５月上旬のフラッグ付きのハマシギの写真があり「非常に擦り切れた雨覆にもかかわらず成鳥であり第１回夏羽ではない」と説明されています（Chandler 2009）。図６の個体も成鳥夏羽のようです。

ハマシギの第１回夏羽はどんな羽衣なのかを調べましたが、普通種であるにもかかわらず資料を探せません。図６の個体でも新しい夏羽と擦れた冬羽、激しく擦れた幼羽があるように見えますが、明確に判別できなければ第１回夏羽と言い切れず、そう見えると言うだけでは無理です。

第１回夏羽

図７　ハマシギ　第１回夏羽　2012.05.25

図７のハマシギは５月25日でも上面が灰褐色で下面は白く黒斑がありません。千羽以上もいた渡りの群が去ったあとに入れ替わるように飛来した１羽です。冬羽のような羽色をしています。三列風切の褐色の羽と雨覆の擦れた羽を幼羽と考え、第１回夏羽と判断しました。上面に赤褐色で黒い斑の夏羽がなく腹部は白さが際立っています。換羽は個体差が大きいですが成鳥であれば夏羽への換羽が遅すぎます。

図８のサルハマシギは顔から腹部にかけての赤褐色が弱く、５月によく見る成鳥夏羽の羽模様とは違います。他の一部のシギにも見られますが、第１回夏羽は冬羽のような個体や、部分的にしか夏羽に換羽しない個体がいます。図８は夏羽に換羽中の成鳥に似た羽模様ですが、成鳥なら夏羽の完成度が最も高い時期であるはずの５月 21 日に、夏羽への換羽が中途半端であることからも第１回夏羽と考えることが出来ます。

図８　サルハマシギ　第１回夏羽　2009.05.21

ハマシギ　成鳥冬羽に換羽中と第１回冬羽に換羽中

図９のハマシギは上面の多くが冬羽に換羽していますが、背・肩羽に赤褐色の夏羽が残り、腹部にも黒斑が残る冬羽に換羽中の成鳥です。図 10 のハマシギは肩羽の一部に赤褐色と黒色の幼羽が見られ、雨覆と三列風切も羽縁が淡橙色で幼羽です。第１回冬羽に換羽中と分かります。

図９　ハマシギ　成鳥冬羽に換羽中　2009.10.10

図 10　ハマシギ　第１回冬羽に換羽中　2007.10.16

ハマシギ　成鳥冬羽と第１回冬羽

ハマシギ成鳥の冬羽換羽は完全換羽です。図 11 の個体は上面が一様な灰褐色で、冬羽に全換羽している成鳥と分かります。冬羽は灰褐色で細い淡色の羽縁があります。第１回冬羽は部分換羽です。図 12 の個体は雨覆・三列風切に幼羽が残っています。幼羽は冬羽に比べ褐色で、羽縁は冬羽より太く、橙味のある個体から淡色の個体までいます。

図 11　ハマシギ　成鳥冬羽　2014.01.18

図 12　ハマシギ　第１回冬羽　2013.01.29

幼鳥の比較

図 13　ハマシギ幼鳥　2018.09.01

図 14　サルハマシギ幼鳥　2010.09.08

図 15　2010.09.08

図 14 のサルハマシギ幼鳥は頸から胸にかけて褐色ですが、図 16 の幼鳥は褐色味が弱く白っぽく感じます。サルハマシギ幼鳥は羽色にかなり個体差があります。

ハマシギ幼鳥（図 13）は背・肩羽の黒褐色の軸斑が大きく胸は褐色味を帯び、小さな黒斑が胸から腹にいくつもあります。特に腹に黒斑が多く集まっています。サルハマシギ幼鳥（図 14）の上面は濃褐色で淡色の羽縁が目立ちます。羽縁の内側に黒褐色のサブターミナルバンドがあります。図 15 は手前がハマシギ幼鳥で奥がサルハマシギ幼鳥です。嘴の長さはほとんど同じで足の長さは分かりません。種の識別は羽模様が最も頼りになります。

図 16　サルハマシギ　幼鳥　2010.09.06

最後に

ハマシギは腰から上尾筒の中央部が黒褐色で尾羽の中央 2 枚も黒褐色です（図 17）。サルハマシギは腰と上尾筒に小さな黒褐色の斑がありますが目立つ程でもなく腰は白く見えます（図 18-19）。類似の種がいる場合、種の違いを特定できる部位をしっかり見ておきましょう。

引用文献

Chandler, Richard (2009): Shorebirds of the northern hemisphere, Christopher Helm Ltd., London.

図 17　ハマシギ　夏羽に換羽中

図 18　サルハマシギ 幼鳥

図 19　サルハマシギ　成鳥夏羽

野鳥記録（2018 年 11 月 21 日から 2019 年 2 月 20 日までに報告があったもの）

野鳥の種類名	個体数	観察月日	観察場所（三重県）	雄／雌／などの区別	記録報告者名	脚注
ツクシガモ	3	2018 年 12 月 14 日	四日市市鈴鹿川	雌・成鳥 1 羽、幼鳥 2 羽	山神 勝治	1
クロガモ	4	2018 年 12 月 21 日	津市白塚町	雄 3 羽、雌 1 羽	山神 勝治	2
クロガモ	7	2018 年 12 月 27 日	津市香良洲	雄成鳥 6 羽、雌成鳥 1 羽	南 一朗	3
トモエガモ	1	2018 年 12 月 24 日	四日市市山村ダム	雄・成鳥	山神 勝治	4
アメリカヒドリ	1	2018 年 12 月 25 日	四日市市 北勢中央公園	雄・成鳥	山神 勝治	5
ハヤブサ 亜種ツンドラハヤブサ	1	2018 年 12 月　7 日	松坂市	幼鳥	山神 勝治	6
クマタカ	1	2019 年　1 月　2 日	桑名市	幼鳥	山神 勝治	7
コガモ 亜種アメリカコガモ	1	2019 年　1 月　5 日	桑名市員弁川	雄・成鳥	山神 勝治	8
ツバメ	10	2019 年　1 月　9 日	四日市市川島町 三滝川		川瀬 裕之	9
クロガモ	3	2019 年　1 月 12 日	津市香良洲町海岸洋上	雄 2 羽、雌 1 羽	前田 聰	10
ツクシガモ	1	2019 年　1 月 12 日	津市香良洲町海岸洋上		前田 聰	11
エリマキシギ	2	2019 年　1 月 12 日	松阪市曽原大池	成鳥冬羽雌雄 1 羽は？	玉田 浩司	12
ウミアイサ	3	2019 年　1 月 12 日	津市安濃川河口	雄	玉田 浩司	13
コウノトリ	1	2019 年　1 月　3 日	志摩市阿児町 ほのぼの公園近く	雌	広野 喜郎	14
イワツバメ	10	2019 年　1 月 20 日	桑名市多度町 肱江川		笹間 俊秋	15
オオタカ 亜種チョウセンオオタカ	1	2019 年　1 月 10 日	桑名市員弁川	幼鳥	山神 勝治	16
コクガン	3	2019 年　1 月　2 日	鈴鹿市下箕田町		伊藤 登喜男	17
カワアイサ	16	2019 年　2 月 16 日	津市美杉町八手俣　君ケ野ダム湖	雄 5 羽、雌 11 羽 (幼鳥が含まれているかも)	前田 聰	18
ヒドリガモと アメリカヒドリの雑種	1	2019 年　1 月 14 日	名張市夏見の 中川原団地近辺		田中 豊成	19

脚注

1. 久しぶりに鈴鹿川で 3 羽のツクシガモを観察できました。
2. 三重の海で久しぶりに近くで観察できた。
3. 7 羽同じタイミングで潜水を繰り返していました。
4. 山村ダムでは、3 度目の観察です。
5. 綺麗な個体でした。
6. 本種は、図鑑等で詳細な記事が掲載されていないので真木広造氏に見てもらい、ツンドラハヤブサだろうとコメントをもらいました。**（本誌 4 ページ参照）**
7. 団地の裏の里山にこんな猛禽が居て驚きました。
8. たくさんのコガモやヒドリガモに混じっていて探すのに苦労しました。
9. 10 羽が群れをなして飛び交っていました。昨年もこの辺りで 2 月初旬に目撃しました。
10. 波打ち際にはﾎｵｼﾞﾛの番いやｳﾐｱｲｻの群れ (約 10 羽）が、その中間にｸﾛｶﾞﾓが 3 羽見られた。
11. 今季初認であったので投稿させて頂きます。
12. アオアシシギ 3 羽、コアオアシシギ 1 羽、オオハシシギ 1 羽とともに行動。たまに飛び立ち、隣接する田んぼに行くもまた戻ってくる。オオタカの襲来を受けたりしていました。
13. 観察していると突然ディスプレイを始めました。その時周囲にメスはいなかったのですが。

14. 12 月 27 日頃からコウノトリが来ていると聞き、1 月 3 日から 13 日まで 3 回観察に行きました。いずれもほぼ同じ場所にいて、ゆうゆうと餌（ザリガニ）を探していました。コウノトリ湿地ネット・日本コウノトリの会へ問い合わせた結果、足環から昨年 (2018) 鳴門市で生まれた歌ちゃん (♀) と判明した。
15. 真冬なのにツバメが飛んでおり、確認するとイワツバメでした。おそらく暖冬のため 10 羽ほどでここに越冬しているようです。
16. 員弁川の河原の流木にとまっていました。ハート形の縦斑がハッキリ確認できました。
17. 代理投稿：笹間 俊秋。鈴鹿市の伊藤登喜男氏が撮影。年明けに鈴鹿市の海岸で 3 羽のコクガンが岸壁に付着した海藻を食べていました。1 月中はずっと滞在していました。
18. 今季、初見で、かつ 16 羽の集団であったので、投稿させてもらいました。

クロガモ：南 一朗

エリマキシギ：玉田 浩司

コウノトリ：広野 喜郎

カワアイサ：前田 聡

コクガン：伊藤 登喜男

ヒドリガモとアメリカヒドリの雑種：田中 豊成

立山アルペンルート宿泊探鳥会のご案内

カヤクグリ

ホシガラス

・募集人数　**35 名**　参加申し込みは日本野鳥の会三重会員、参加申し込みをした会員の家族 1 名に限定します。
・観察できる野鳥　ライチョウ、イワヒバリ、カヤクグリ、ホシガラスなど高山の鳥
・参加費　　交通費・昼食 2 食・ホテル代（夕食付き）　**会員 38,000 円**　　**会員外　39,000 円**を予定
・実施日時　**8 月 7 日 (水) ～ 8 日 (木)1 泊 2 日**　松坂、津、桑名　各駅前を出発し、
　　往復とも貸切りバスで移動します。
・宿泊施設　**立山高原ホテル**　標高 2,300 m　の高山帯にあります。
・申込締切日　　**6 月 30 日**
・問い合わせ、申込み先：**近藤義孝**
　〒 511-0123　三重県桑名市多度町北猪飼 521
　TEL 0594-48-3260　携帯 090-7431-0563　E-mail：fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp
　詳細はチラシ・ホームページをごらんください。

探鳥会報告（2018 年 11 月～ 2019 年 2 月）

●安濃川河口探鳥会

2018 年 11 月 18 日（日）13:00 ～ 15:00
津市高洲町　安濃川河口
落合 修　杉村 滋弘　　参加者 14 名（会員 11 名）
オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、オオホシハジロ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、シロチドリ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、ミサゴ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ミヤコドリ、ドバト　計 35 種

　オオホシハジロがいるとのことで、全員で探してみた所、ホシハジロの群れの中で、カモが寝ているためなかなか見つけられませんでした。すると、カモたちがひょこっと頭をあげる時があり、その中で、オオホシハジロも頭をあげてくれました。おかげで全員で観察することができ、特徴的なくちばしもしっかり観察できました。

●木曽岬干拓地探鳥会探鳥会

2018 年 11 月 25 日（日）9:00 ～ 12:00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤 義孝　笹間 俊秋　参加者 21 名（会員 18 名）
キジ (1)、オカヨシガモ (30)、マガモ (20)、カルガモ (5)、ハシビロガモ (20)、コガモ (200)、ホシハジロ (50)、キンクロハジロ (23)、カイツブリ (6)、カンムリカイツブリ (1)、ハジロカイツブリ (1)、キジバト (1)、カワウ (1000)、アオサギ (2)、オオバン (15)、ケリ (1)、タシギ (2)、イソシギ (1)、ミサゴ (5)、トビ (3)、チュウヒ (4)、ハイタカ (2)、カワセミ (2)、モズ (7)、ハシボソガラス (20)、ハシブトガラス (10)、ヒバリ (1)、ヒヨドリ (30)、ウグイス (1)、メジロ (6)、ムクドリ (50)、ルリビタキ (1)、ジョウビタキ (3)、スズメ (60)、ハクセキレイ (3)、セグロセキレイ (3)、タヒバリ (20)、カワラヒワ (15)、ホオジロ (5)、アオジ (2)、ドバト (150)　計 41 種

　先月に続いて、快晴の探鳥日和でした。チュウヒが 4 羽観察でき、2 羽は近くまで寄ってきてくれました。

●鈴鹿市野鳥観察会

2018 年 12 月 2 日（日）10:00 ～ 12:00
鈴鹿市岸岡町　海のみえる岸岡山緑地
藤井 英紀　　参加者 30 名

コガモ、キジバト、カワウ、トビ、コゲラ、チョウゲンボウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ 計 13 種

●員弁川探鳥会

2018 年 12 月 9 日（日）9:00 ～ 11:30
いなべ市員弁町　員弁川周辺
近藤 義孝　笹間 俊秋　　参加者15名(会員13名)

キジ、キジバト、カワウ、アオサギ、ケリ、イカルチドリ、トビ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ、ドバト 計 23 種

冬型の気圧配置のため時々時雨れる寒い日でした。チョウゲンボウが何回も姿を見せてくれました。

●身近な冬鳥を観察しよう (博物館周辺の溜池)

2018 年 12 月 9 日（日）9:30 ～ 11:15
津市一身田上津部田　三重県総合博物館周辺の溜池
共催団体／三重県総合博物館・三重県環境学習情報センター
平井 正志　木村 京子　　参加者 17 名(会員２名)

カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、アオサギ、ダイサギ、コゲラ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、メジロ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ　　計 15 種

博物館内で剥製標本を見て、カモの体の作りや翼のたたみ方などを学習した後、外へ出た。前日までの暖かさはどこへやら、寒い日であった。しかし、幸いにも風は弱く、寒いながらもおおさん池、ひょうたん池などの溜池の鳥を楽しんだ。熱心な小学生も参加して有意義な会であった。途中住宅開発のため、溜池周囲の林や竹林が伐採されているのを見て、残念な思いであった。

ルリビタキ

●ベルファーム探鳥会

2018 年 12 月 9 日（日）9:30 ～ 11:20
松阪市伊勢寺町　松阪市農業公園ベルファーム
加藤 恭子　中村 洋子　　参加者38名(会員16名)

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、クサシギ、イソシギ、トビ、オオタカ、ノスリ、コゲラ、ハシボソガラス、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アオジ　計28種

初心者探鳥会を兼ねて開催したので、会員外の方にたくさん参加していただけました。強風の吹く寒い日でしたので、小鳥は少なかったですが、池にカモ類がたくさんいたので、初心者の方にも楽しんでいただけました。オオタカの幼鳥の、木に止まっている姿と空を飛んでいる姿を見ることができました。

●横山池・安濃ダム探鳥会

2018 年 12 月 16 日（日）10:00 ～ 12:00
津市芸濃町　横山池・安濃ダム
落合 修　奥山 正次　　参加者 10 名(会員 10 名)

マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、ミサゴ、トビ、コゲラ、モズ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、カワラヒワ、ベニマシコ、カシラダカ、アオジ　計 28 種

当日の朝は霜が降りていて、寒いかなと思われたが、探鳥会の間は風もなく穏やかでした。横山池では、いつもよりミコアイサの数が多かったです（なぜか雌ばかりでした)。安濃ダムでは、下見の時に見られたオシドリはいなく、静かで一見何も鳥がいないのでは？と思われたが、少し場所を移動すると混群を観察することができました。

●磯部川水系探鳥会

2018 年 12 月 16 日（日）9:30 ～ 11:30
志摩市磯部町穴川　穴川～迫間
濱屋 勝則　高木 正文　　参加者 11 名(会員９名)

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、カワアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ジョ

ウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、ドバト　計 35 種

朝からよく晴れた日差しの下で探鳥会を今回も開催する事が出来ました。参加された方々は寒さ対策をされた装いでお越しでしたが、コースを歩いてる途中では暑さを感じる程の陽気でした。風も無く穏やかだったので、川に浮く水鳥や上空を飛ぶ鳥たちをのんびり観察出来て良かったです。

●木曽岬干拓地探鳥会探鳥会

2018 年 12 月 23 日（日）9:00 ～ 12:00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤 義孝　笹間 俊秋　参加者 56 名（会員 44 名）

オカヨシガモ (14)、マガモ (20)、カルガモ (8)、ハシビロガモ (9)、コガモ (20)、ホシハジロ (16)、キンクロハジロ (6)、ミコアイサ (1)、カイツブリ (20)、カンムリカイツブリ (1)、キジバト (3)、カワウ (5000)、アオサギ (1)、ダイサギ (1)、ナベヅル (2)、オオバン (7)、タゲリ (1)、ケリ (1)、クサシギ (1)、イソシギ (1)、セグロカモメ (1)、ミサゴ (5)、トビ (3)、チュウヒ (3)、ハイイロチュウヒ (1)、オオタカ (1)、ノスリ (2)、カワセミ (1)、モズ (3)、ハシボソガラス (50)、ハシブトガラス (30)、ヒバリ (30)、ヒヨドリ (10)、メジロ (10)、セッカ (1)、ムクドリ (100)、ツグミ (30)、ジョウビタキ (1)、スズメ (150)、ハクセキレイ (10)、セグロセキレイ (3)、タヒバリ (50)、カワラヒワ (15)、ホオジロ (15)、ホオアカ (1)、アオジ (1)、オオジュリン (2)、ドバト (350)　計 48 種

合同探鳥会ということで、遠江支部から 17 名の参加がありました。合計では 56 名の参加者があり、鳥も 48 種観察できました。鍋田干拓地に 2 羽のナベヅルが観察でき、木曽岬干拓地では、チュウヒやハイイロチュウヒが舞っていました。

●上野森林公園探鳥会

2019 年 1 月 13 日（日）9:30 ～ 11:30
伊賀市下友生松ヶ谷 1　三重県上野森林公園
共催団体／上野森林公園・三重県環境学習情報センター
前澤 昭彦　玉田 浩司　参加者 18 名（会員 10 名）

オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、オオバン、ミサゴ、トビ、コゲラ、アカゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ　計 31 種

ポカポカ陽気の中での探鳥会。四十九新池ではミコアイサの♂を 2 匹もゆっくりと観察できました。サブリーダーの玉田さんが参加者のために野鳥チェックリストやエナガの生態の資料を用意。エナガの混群に 2 回出会うなど、里山の小鳥をゆっくりと見ることができました。

●肱江川探鳥会

2019 年 1 月 20 日（日）　開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

●木曽岬干拓地探鳥会探鳥会

2019 年 1 月 27 日（日）9:00 ～ 12:00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
笹間 俊秋　参加者 16 名（会員 8 名）

キジ (1)、オカヨシガモ (16)、マガモ (20)、カルガモ (20)、ハシビロガモ (18)、コガモ (90)、ホシハジロ (6)、キンクロハジロ (5)、カイツブリ (17)、キジバト (1)、カワウ (50)、アオサギ (9)、ダイサギ (9)、オオバン (12)、タゲリ (16)、ケリ (3)、クサシギ (1)、カモメ (1)、セグロカモメ (1)、ミサゴ (6)、トビ (1)、チュウヒ (3)、ノスリ (1)、カワセミ (1)、チョウゲンボウ (1)、モズ (1)、ハシボソガラス (200)、ハシブトガラス (50)、ヒバリ (30)、ヒヨドリ (30)、メジロ (2)、ムクドリ (25)、ツグミ (5)、ジョウビタキ (2)、スズメ (150)、ハクセキレイ (32)、セグロセキレイ (2)、タヒバリ (30)、カワラヒワ (30)、ホオジロ (4)、ホオアカ (1)、アオジ (1)、オオジュリン (3)、ドバト (50)　計 44 種

三重県北部では朝まで雪になったところもありましたが、木曽岬町周辺は少し風はあるものの良い天気に恵まれました。上空には合計 6 羽のミサゴが飛び、干拓地では 3 羽のチュウヒも観察することができました。船着き場ではカモメとセグロカモメが飛び、田んぼでは多数のタゲリ、タヒバリが餌を捕っているところを観察することができました。

●大淀海岸探鳥会

2019 年 1 月 27 日（日）9:30 ～ 11:30
多気郡明和町　大淀 (おおよど) 海岸
岡本 忠佳　中村 悦子　参加者 6 名（会員 5 名）

ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、オオバン、シロチドリ、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨ

ドリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ホオジロ　計 27 種

冬の一番寒いとき、当地初参加の会員 2 名と探鳥会初参加の 1 名、計 6 名での探鳥会でした。

今回はヒメウの姿は見られませんでしたが、漁港内でカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリをゆっくり時間をかけて見ることができました。

松林ではビンズイが群れており、メガソーラー周辺ではホオジロのペアがいて雌雄の違いを近くで見比べることができました。全体的にはカモ・カモメ類、シギ・チドリ類、小鳥たちの数は少なく感じました。

●木曾三川探鳥会

2019 年 2 月 3 日（日）9:00 ～ 12:00
桑名市・海津市・愛西市　揖斐川・長良川・木曽川
笹間 俊秋　近藤 義孝　　参加者 14 名(会員 5 名)

ヨシガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、タゲリ、ケリ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、カワガラス、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン　計 40 種

朝から雲一つ無い晴天に恵まれました。揖斐川ではオオジュリンが観察され、移動する際には車の中からチュウヒを観察することができました。しかし、今年は背割り堤では例年よりカモの数が少なかったのが残念でした。それでも 40 種類と多くの野鳥を観察することができました。

●鈴鹿青少年の森探鳥会

2019 年 2 月 10 日（日）10:00 ～ 12:00
鈴鹿市　県営鈴鹿青少年の森
共催団体／鈴鹿市
藤井 英紀　市川 美代子　参加者 21 名(会員 7 名)

マガモ、カルガモ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ユリカモメ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、カワラヒワ、アオジ　計 23 種

気温は低かったですが、晴天に恵まれ開催することができました。例年であれば、敷地内の道伯池にユリカモメが多数飛来しているのですが、今回は数羽しか確認できませんでした。これまでの探鳥会では見られなかったアオジが見られたり、違う場所で多くの種が見られました。

●五十鈴川周辺探鳥会

2019 年 2 月 10 日（日）10:00 ～ 11:30
伊勢市蒲田町　五十鈴川公園
高木 正文　作田 久春　　参加者 11 名(会員 9 名)

カイツブリ、キジバト、コサギ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、イソヒヨドリ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、イカル　計 19 種

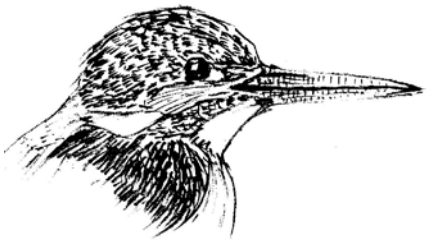
寒い強風の日であった。五十鈴川の橋の工事(2 か所) と雨が少ないためか､川の水量が少なく「カモ」類は出現しなかった。公園のアイドル「トラツグミ」も姿は見せなかった。「カワセミ」のみ十分に観察できた。

●両ヶ池探鳥会

2019 年 2 月 17 日（日）10:00 ～ 12:00
いなべ市大安町石榑東　両ヶ池公園
安藤 宣朗　　参加者 6 名（会員 5 名）

オカヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、トビ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、シロハラ、スズメ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ　計 22 種

良く晴れた絶好の鳥見日和であったが、なぜか参加者 6 名と少ない探鳥会であった。ただ伊賀市から遠路お越しの方もあり、和気あいあいの楽しい一時でした。残念なのは道路を挟んで両側にある池のうち、下池が改修のため水抜きされており上池だけの観察となった。両ヶ池の目玉であるミコアイサが最初は見当たらずがっかりでしたが、帰る寸前に巫女姿の雄 1 羽現れほっとした次第でした。キンクロハジロなど 7 種類のカモ類を含み全 22 種を観察した。ただ、常連のツグミ、イカルやサギ類が見られなかったのは何故なのか？



カワセミ

●薦原 (こもはら) 探鳥会

2019 年 2 月 17 日（日）9:00 ～ 12:10
名張市　薦原
田中 豊成　南 一朗　　参加者 7 名（会員 7 名）

オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、カワアイサ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ　計 34 種

昨年と今年に、ハンターがオシドリに発砲し、名張川でオシドリが極端に減りました。カワアイサは毎冬越冬していて、約 10 羽が見られました。川沿いの地道ではシメ、シロハラ、ハイタカ等多くの野鳥が現われ、充分に楽しめました。

●木曽岬干拓地探鳥会探鳥会

2019 年 2 月 24 日（日）9:00 ～ 12:00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤 義孝　米倉 静　参加者 15 名（会員 9 名）

オカヨシガモ (28)、マガモ (9)、カルガモ (24)、ハシビロガモ (13)、コガモ (74)、ホシハジロ (18)、キンクロハジロ (21)、ミコアイサ (18)、カイツブリ (1)、キジバト (3)、カワウ (50)、アオサギ (7)、ダイサギ (6)、オオバン (16)、タゲリ (35)、ケリ (8)、タシギ (3)、クサシギ (1)、イソシギ (2)、ミサゴ (7)、トビ (4)、チュウヒ (5)、ノスリ (3)、カワセミ (3)、チョウゲンボウ (1)、モズ (4)、ハシボソガラス (40)、ハシブトガラス (20)、ヒバリ (10)、ヒヨドリ (8)、ウグイス (1)、メジロ (5)、ムクドリ (50)、シロハラ (2)、ツグミ (20)、ジョウビタキ (3)、スズメ (200)、ハクセキレイ (3)、セグロセキレイ (1)、タヒバリ (8)、カワラヒワ (20)、ホオジロ (12)、アオジ (1)、オオジュリン (3)、ドバト (80)　計 45 種

２月にしては暖かく、鳥を観察するには最適の日でした。チュウヒやノスリなどの猛禽類や、タヒバリやタゲリなどの冬鳥もたくさん観察できました。

モズ

編集後記

この編集が始まる前に北海道へバードウォッチングに出かけていた。

初日は釧路動物園隣の山花温泉に泊まり、早朝にタンチョウを見に行こうと思っていたが駐車場の木にキクイタダキがいて、観察に夢中となり出発が大幅に遅れてしまった。

北海道へは毎年、２月に道東を訪れるのだが、ここ数年は温暖化の影響なのか天候が不順で帰りのフライトでトラブル続きである。３年前などは搭乗寸前に吹雪となり、さらに日航機がボヤ騒ぎを起こして滑走路が閉鎖され、あえなく欠航となった。

今回の旅は３月下旬並みの気温で常に晴天に恵まれ無事帰って来ることができた。
しかし、セントレアで四日市行きの高速バスを待っている間にスマホを開いて見ると地震速報が届いていた。どこだろうと見てみると北海道厚真で震度 6。札幌は交通機関がマヒし、新千歳は滑走路が閉鎖になっていた。

幸い北海道の被害は少なかった様だが、あと 3、4 時間揺れが早ければ巻き込まれていたであろう。間一髪であった。（T.S.）

しろちどり　99 号
2019 年 4 月 1 日発行
題　字：濱田 稔
表紙絵：小野新子
カット：平井 正志
編　集：平井 正志・笹間 俊秋・三曽田 明
発行所：日本野鳥の会三重
平井 正志　方
〒 514-2325 津市安濃町田端上野 910-49
ホームページ　http://miebird.org/
印　刷：株式会社プリントパック
〒 617-0003 京都府向日市